

日本・インドネシア医療連携協会 第2回臨時総会で3名の理事承認

——工学院大・ファカルティクラブで——

日本が有する英知と先進的医療を通して、日本とインドネシア共和国の協力で連携を軸に、医療機関や福祉施

設等の質の向上に寄与し、日本とインドネシア共和国両国民の健康増進に貢献することを目的に活動する団体として関野夫氏（ジェミツク(株)）が中心となり設立された特定非営利活動法人日本・インドネシア医療連携協会

（JIMCA）理事長・楠田聡氏、杏林大学医学部小児科学教室客員教授）の第二回臨時総会兼新年会が二月十二日午後六時から東京・新宿の工学院大学のファカルティクラブで開かれ、新たに三名の理事を選出、承認された。



定刻となり事務局の中丸九二一氏の司会進行で進められ、開会に当たり楠田理事長は、「JIMCAは発足以来皆様方のご協力を得て、活動も一段と活発に大きくなってきてお

り改めて感謝とお礼を申し上げます。先ほど開催した臨時理事会において今後、理事会の開催をスムーズの開催するため、一部定款の見直しと、今般、新理事として似鳥、吉田、三沢の三氏をご推薦し、三氏からはご了解を頂き改めてこの場で会員の皆様のご賛同を頂くことになりました。また今年も七月にAMMF2020 (ADVANCED MEDICAL and MEDICINE FORUM) 「第三回高度医療・医学フォーラム」を「放射線治療・腫瘍学」のテーマのもとにジャカルタ開催されます。皆さんにはごぞつてご参加頂ければ幸いです。」と挨拶。

この後新理事に推挙された似鳥俊明氏（杏林大学医学部放射線医学教室名誉教授）、吉田勲氏（株）メディカルシステムズ代表取締役（役）三澤彩氏（東京大学新領域科学研究科生命科学博士）を承認、三氏から就任の挨拶があり総会議事を終え、ここで来賓として出席のトリ・プルナジャヤ氏（インドネシア共和国大使館臨時代理大使）、鈴木裕之氏（経済産業省商務情報政策局商務・サービスグループヘルスケア産業課係長）、佐藤光史工学院大学学長から当協会が、今後ますます日本・インドネシア両国の医学の発展、両国民の健康増進を願う内容で祝辞が述べられた。乾杯の発声は川淵孝一理事（東京医科歯科大学大学院歯科学総合研究科教授）で開宴し諸平秀樹副理事長（マコト医科精機会長）の中締めまで歓談し、懇親を深めた。

〔写真は新理事の承認を求める楠田理事長と新年会会場〕